

1 釧路都心部まちづくり計画の改訂について

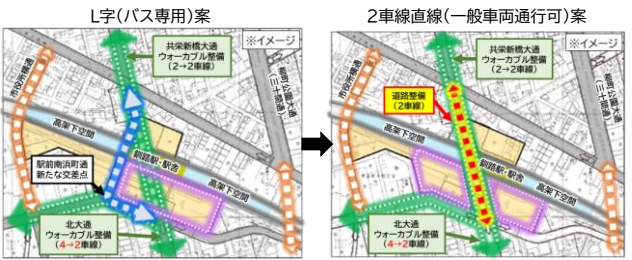
(1)既存計画からの主な変更点

(ア)交差道路の計画変更

駅直近の交差道路の計画をL字(バス専用)案から2車線直線(一般車通行可)案に変更

(イ)鉄道施設の概略設計

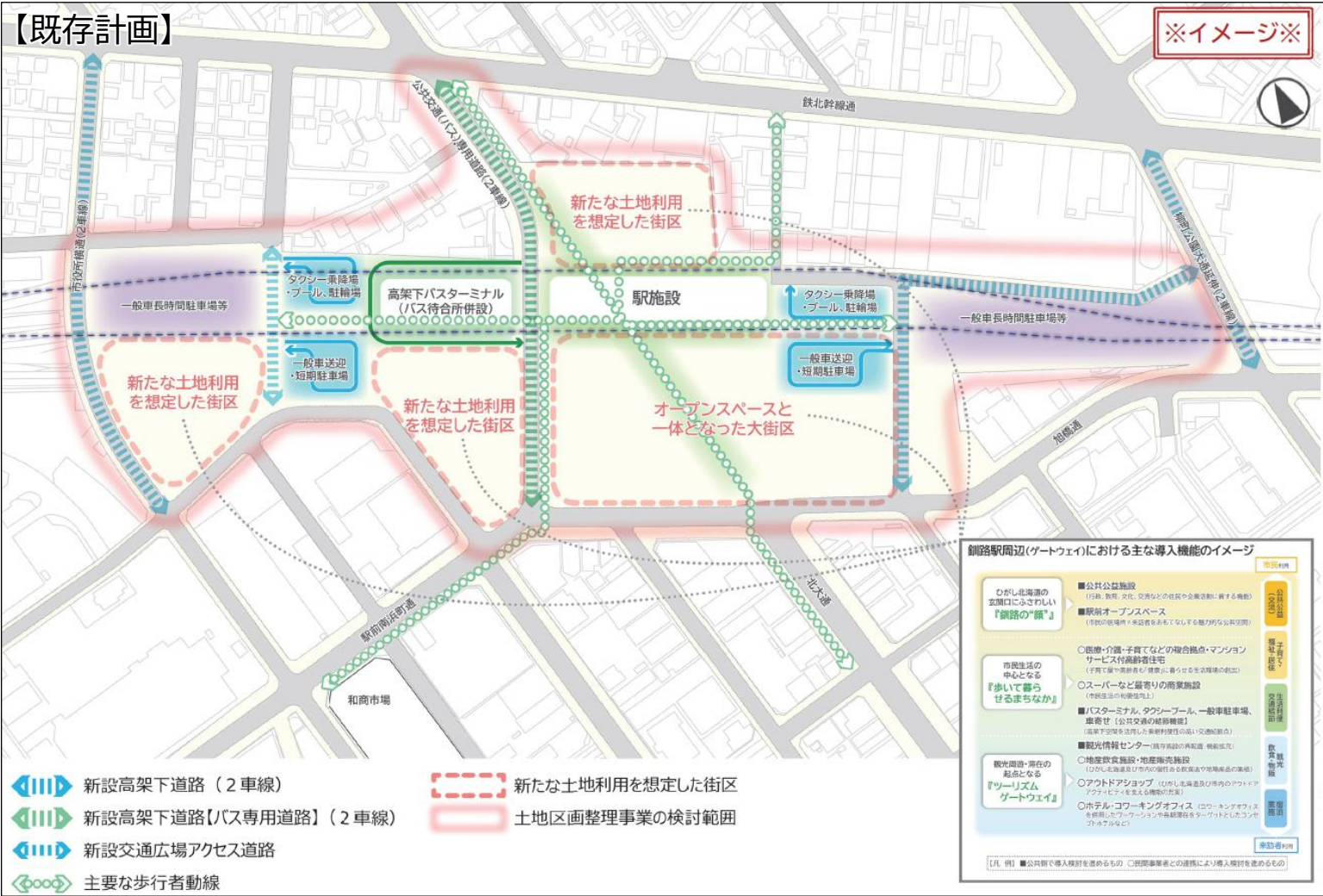
ホーム(規模や位置など)、鉄道高架橋の大きさ(幅員など)、駅舎(改札の位置など)の設計による修正



(2)改訂の主なポイント

高架下空間の利活用

既存計画では、高架下空間に交通広場(バス・タクシー・自家用車の乗降場および駐車場、駐輪場など)を配置する計画



- ・バス乗降場および駐車場(バスターミナル)に求められる性能(バスバース数、幹線道路との接続、バスの転回の円滑さなど)を確保しつつ、高架下空間に配置することは技術的な課題が多い
- ・一定程度規模以上のバス乗降場および駐車場(バスターミナル)を整備するためには、新たな土地利用を想定した街区にも影響

バス乗降場および駐車場(バスターミナル)の配置の再検討が必要

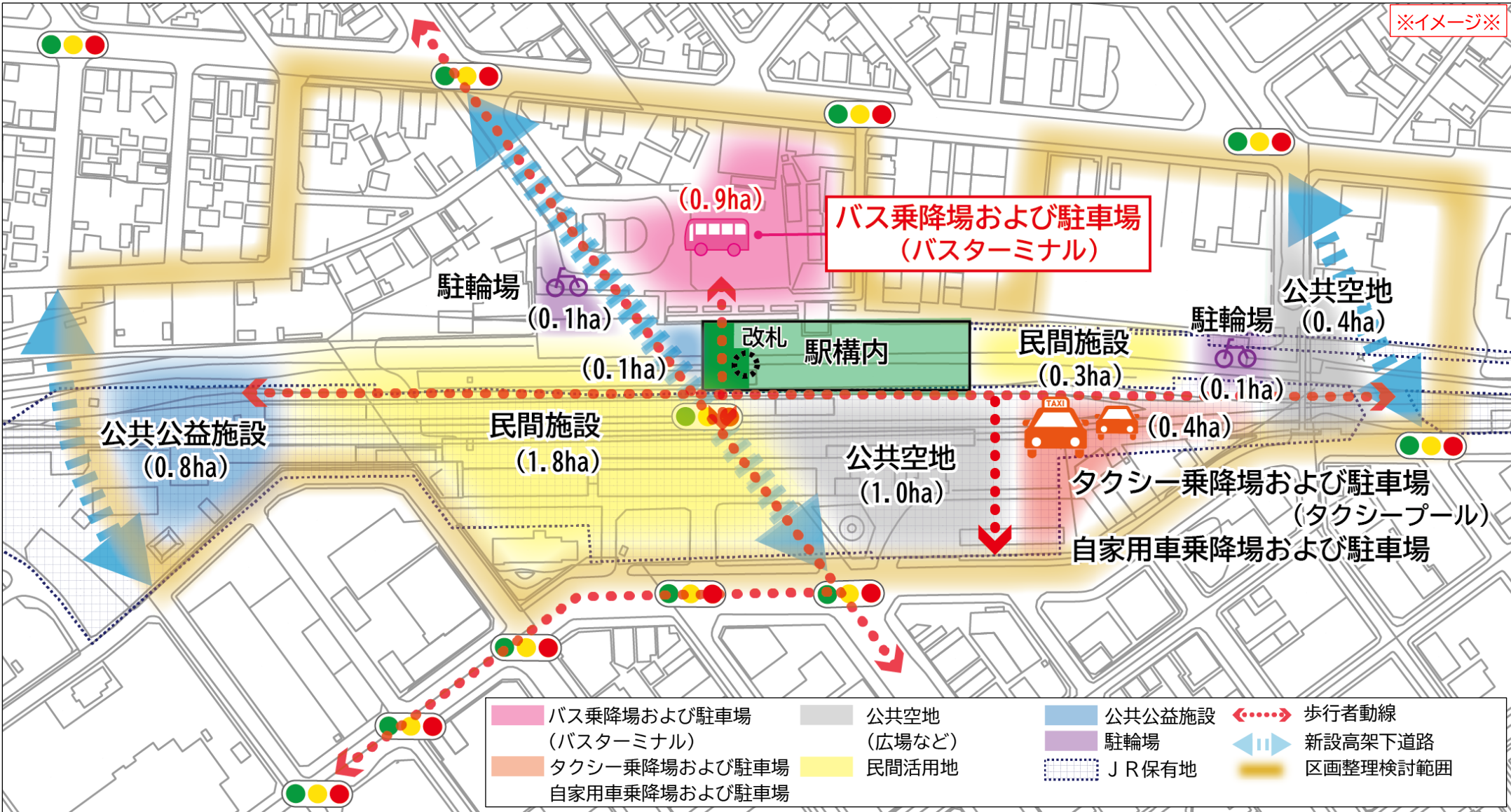


1 釧路都心部まちづくり計画の改訂について

(3)バス乗降場および駐車場(バスターミナル)の新たな配置案

バス乗降場および駐車場(バスターミナル)を北側に配置をする案を軸に検討を進めていきたい

- ・予見可能性(整備の確実性)の高いバス乗降場および駐車場(バスターミナル)を鉄道北側に配置することで、鉄道北側のまちづくりの拠点を形成
- ・駅舎南側には公共空地を配置し、「釧路の顔」および「ウォカブルで居心地の良い空間」を形成



(4)主な意見など(第15回釧路都心部まちづくり推進協議会(準備会)2026/7/28開催、第10回RINK釧路まちづくり交通戦略会議2026/7/29開催)

- ・バス乗降場および駐車場(バスターミナル)などの交通施設の前提条件である、基本的なスペック(必要となる台数など)の整理が必要。
- ・バス乗降場および駐車場(バスターミナル)はバスの種類、運行ルート、利便性向上などの基本条件の整理が必要。
- ・幹線道路の交差点との接続や回転のしやすさなどの技術的な面から、バス乗降場および駐車場(バスターミナル)の位置は決まるはずで、その上で、様々な要素から配置を最適化しようとするときに、(バス乗降場および駐車場(バスターミナル)と他の施設との位置が)トレードオフの関係となるので比較評価が必要。
- ・詳細な図面を作成する過程で実現不可能な案は除かれる。優劣をつけづらい配置案が作成されて、議論して「これでいこう」と決まるので、詳細な図面を提示してほしい。
- ・直線道路にバスを通すことを前提としたときに、どのようにウォカブルを成立させるかの検討が必要。
- ・ひがし北海道の玄関口にふさわしい整備が必要。(人が集まる)目的になるような施設が必要であり、民間施設の誘致や公共公益施設の整備が必要。
- ・駅周辺整備に防災機能の肉付けが必要。
- ・バス乗降場および駐車場(バスターミナル)から幹線道路に出るまでの所要時間の短縮など、バス利用者の利便性だけではなく、バスの運行も考慮してほしい。